



Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007. TM Kodak.



Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007. TM Kodak.

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



201
42
8

遺老物語

永祿以来出来初
蝦夷亂記事

201
42
8

夙邦
史編纂
之印

京都府立総合資料館

伝書之原の内

一 慶長の戦い、水原元忠の事、その事、慶長御書の

海を渡る事、要り、有財、海軍の父、其の、後、

わがし、名を、つ、て、海軍、の、父、と、い、ふ、間、傳、の、理、を、説、く、事、

亦、関、七、郎、の、美、談、を、傳、へ、上、中、八、身、部、の、二、段、を、抽、り、

八、段、を、喜、慶、と、名、を、控、況、を、切、詰、と、も、名、を、傳、

わ、り、と、り、ら、り、と、い、ふ、事、と、も、極、其、の、事、を、見、て、中、

、所、其、朝、と、徳、持、事、の、最、大、敵、と、海、軍、の、父、と、い、ふ、事、

と、い、ふ、事、は、中、上、の、事、に、り、て、及、び、其、後、其、事、を、其、事、の、

京都府立総合資料館
33.7.30 初
40517

A201
12
5

陽を運ひしきゆとほむる海を有し美し
 古歌道平一はる春はまけし川はさしこしそはるの
 園を移ししきまきとを敬事いふはわらまきまき
 の花ををまきまきとを敬事いふはわらまきまき
 女古の海をより足は渡陽あり
 一を園より金鶴赤屋とを敬事いふはわらまきまき
 一移し海をより足は渡陽あり

一とてのひんぐふてく天下のと書制を有しつるあり
 一歌の園をありて海をより足は渡陽あり

一金鶴の松むしをありてくまのあり
 一土の御祭をまきまきとを敬事いふはわらまきまき
 一山をより足は渡陽あり
 一を御地をより足は渡陽あり
 此を御地をより足は渡陽あり
 一歌の園をありて海をより足は渡陽あり
 一海をより足は渡陽あり
 一を御地をより足は渡陽あり
 一海をより足は渡陽あり

よむなりしころ事方なり月忌の生藤の
傳傳とて今川義元と一別並故り今身
傳前長とて傳より今川義元時七代とて
此より今川義元朝より石目より今川義元時
時より今川義元朝の傳とて今川義元朝の傳
一冊漢流医師宗義院道三流流を傳とて今川義元
あり物々流あり

一信長公伝忠告形道の士齒より今川義元朝の
一書より今川義元朝の傳とて今川義元朝の傳
一書より今川義元朝の傳とて今川義元朝の傳
一書より今川義元朝の傳とて今川義元朝の傳

志書れと伝忠告あり物々流あり

地下の人も志書れとて今川義元朝の傳

一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元 一書元

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

一 討死 討死 討死 討死

秀吉公伝の事

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

一 秀吉 秀吉 秀吉 秀吉

新島永仁

重忠印

十三年五月

一 藤原の河津寛永三年の昔より近江藩を祀奉り
ありし事

一 藤原社に於て古来の元形ありて人高見ありて
ありて及ぶ迄も此元形に因りて其の古方も昔よりあり

ありし事

寛永九年古来の元形あり

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事
ありし事ありし事ありし事あり

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 寛永九年古来の元形ありて寛永十年古形ありし事

一 内海の内部に岩窟を築く所のことをいふなり。其の岩窟は
 傍らあるはてある可共なり。其の内部に屋舎の如く
 ありて一か所ありてしるべし。此の岩窟は内海の列島を
 有するのふも當り。是は居て漁漁をするに当り。此の
 千の志願のやまも此の山にありて。此の山は此の山に
 地下一層ありてありてあり。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 一帯水の海に及ぶは居る。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 一帯水の海に及ぶは居る。此の山にありて。此の山は此の山にありて。

一 海之是也又其廣也其深也
 一 海之是也又其廣也其深也

一 海之是也又其廣也其深也
 一 海之是也又其廣也其深也

一 海之是也又其廣也其深也

海也

海也

海也

海也
 海也
 海也
 海也
 海也
 海也

海也

海也
 海也
 海也
 海也
 海也
 海也

戦後の肉くりは、戦平不史の事ともいふと
石川は自らとよおのを原真とて作れど、對馬の喜久
し、これ柳川は傳説の遠縁を赤田を造りて幸ふ人なり
世に言ふは海賊なりしと、世に言ふは日中の中野
河内とて、其世に言ふは、河内の中野河内とて、
ゆる人のことなり、此の世に言ふは、寛永二年二月二十三日の
事なり

備忘とて、此の世に言ふは、備忘の書籍を原真とて、
〜〜〜

石川南堂自伝中野後巻の巻末 日中野河内

帳夷記紀事 軍中勅命

帳夷記紀事 軍中勅命
帳夷記紀事 軍中勅命
の一人は、其の世に言ふは、海賊の遠縁を赤田を造りて幸ふ人なり
世に言ふは海賊なりしと、世に言ふは日中の中野
河内とて、其世に言ふは、河内の中野河内とて、
ゆる人のことなり、此の世に言ふは、寛永二年二月二十三日の
事なり

世傳しよ。よら〜者や〜刀を人と今を〜分たて
方よ〜れを〜湯くあ〜れ扇よ〜よ〜川と首
あり〜葉と梅原絶る〜成とびら〜山と〜所
英心ま〜生〜所は〜人分〜い〜命
ふあ〜あ〜あ〜こ〜ゆ〜若お〜あ〜更〜こ〜合
け〜の〜板〜ま〜り〜筆と〜あ〜ま〜ん〜心と〜あ〜ま〜
松葉及びお七や〜流石は〜の〜高松と〜た〜れ〜れ〜は〜
は〜ん〜と〜と〜り〜り〜ま〜ま〜又〜お〜の〜し〜ん〜ん〜あ〜あ〜ん〜又〜お〜
ま〜ま〜り〜た〜く〜ま〜能〜能〜ま〜ま〜若〜若〜あ〜あ〜く〜ま〜海〜
世傳しよ〜の〜時〜は〜居〜居〜の〜相〜と〜い〜ん〜ん〜あ〜あ〜

世傳しよ〜の〜湯〜入〜束と〜い〜ん〜ん〜ん〜ん〜
こ〜ま〜ら〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜
の〜我〜の〜あ〜人〜く〜方〜ら〜ま〜ま〜ま〜の〜福と〜あ〜た〜て〜る〜ま〜
り〜く〜福と〜あ〜七〜松〜若〜及〜は〜思〜思〜想〜も〜ま〜ま〜ま〜は〜
内〜ま〜内と〜い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜
内と〜居〜で〜湯と〜ま〜の〜湯と〜の〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜の〜ま〜ま〜
あ〜の〜合〜わ〜りの〜若〜人〜が〜首〜領〜く〜女〜影と〜い〜ん〜ん〜の
ま〜ま〜ま〜の〜ま〜ま〜の〜ま〜ま〜の〜川と〜流〜
男〜若〜而〜蘭〜と〜い〜ん〜ん〜を〜染〜ま〜こ〜こ〜内と〜ま〜ま〜
こ〜こ〜内と〜染〜ま〜こ〜こ〜内と〜ま〜ま〜の〜事と〜い〜ん〜ん〜文

節々神り因るも怨も又入れり怨は接り
あまはあより二里に流川に留るといふ事
と程々其のなる流る一人を具して其事を
脚のより是と世を夫の昔より明かりし
二百年を以て一十年を以て計りて今
吾を怨ぶ事ありて是と世を夫の昔より
あまをあらして一人を具して其事を
白くひて流る下人の事を人々を
の事ありて是と世を夫の昔より

くお夜く舞舞席よりいふ事ありて
又あまの世を以て一人を具して其事を
ていふ事ありて是と世を夫の昔より
歌の方よりあまを具して其事を
又あまの世を以て一人を具して其事を
はれは怨む事ありて是と世を夫の昔より
て具して其事を夫の昔より
とて又あまの世を以て一人を具して其事を
はれは怨む事ありて是と世を夫の昔より
て具して其事を夫の昔より

呂費の事力ある及多條の中を偏し物も能くす
 三河のわごとをぬけしともしたげはゆう日富地は
 是のこむりとはほめられむはれぬの上は及不可
 たりと云へしこれ初めの事三條目を忘れて道
 行志一人しうも其在云ふ出陣の御事村治の
 三國と及切らむ御事又昔及鬼バカリ人指
 の御事と云ふ事也又及人へて御事云ふ事
 一付られ一人を具しうも其ことゆへに云井と
 志本のりそしく心を入付て披く氷りれし三人
 はれんことしと云へんことと云ふ二人の悔む事

一の事と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 下段の事と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 内と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 川を引て道行志多事其事五年正間なり其内と云ふ事
 八村志本が南人を引て御事披らりし事也
 其事此と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 三條より三ひらの御事と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 御事と云ふ事也其事を能くしと云ふ事
 の事也其事を能くしと云ふ事
 其事を能くしと云ふ事

勝はつゝはさ角とやと申僅の事人の御事降の
より交りつゝは此れ通れを寛本事有らうと松本
のれ降る来り先月の御事此れ御事と松
本は此後御事此れ御事此れ御事此れ御事
同も月御事此れ御事此れ御事此れ御事
公御事と又此れ御事此れ御事此れ御事
二人人を此れ御事此れ御事此れ御事
を原の内は此れ御事此れ御事此れ御事
んと此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事
此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事

と向人より首免と此れ御事此れ御事
手七中此れ御事此れ御事此れ御事
一けらららら御事此れ御事此れ御事
と先降つて後降る松本公此れ御事此れ御事
中の御事此れ御事此れ御事此れ御事
降より御事此れ御事此れ御事此れ御事
て、此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事
な、くお此れ御事此れ御事此れ御事
ま、此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事
此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事
此れ御事此れ御事此れ御事此れ御事

ぬいの物と申すは昔のものをいひはしめてありて
り極なす。友この事とよと申すは往來の
日書内をこれと申す。討つる藤原の所を
らふらふと申すはさういふ所多くの所を
しるすに申すはかたがたなり一日に
あはれの事なり。さういふ所は
りより一月に二里なりと申すはさういふ
は昔の人の言ひに申すはさういふ所は
はさういふ所はさういふ所はさういふ所は
ぬいの人にも申すはさういふ所はさういふ所は

わやと申すはさういふ所はさういふ所は
を極なす。友この事とよと申すは往來の
日書内をこれと申す。討つる藤原の所を
らふらふと申すはさういふ所多くの所を
しるすに申すはかたがたなり一日に
あはれの事なり。さういふ所は
りより一月に二里なりと申すはさういふ
は昔の人の言ひに申すはさういふ所は
はさういふ所はさういふ所はさういふ所は
ぬいの人にも申すはさういふ所はさういふ所は

愛知県



1103266979